

令和の農林水産大革命

日本の農林水産の再生 安定収入、効率化、魅力ある産業にするためには、地球温暖化、化学物質、自然災害(地震、津波、豪雨、台風、高温、渇水、火山)のリスク 長期的には海面上昇まで考えた産業にしなければ、現在の日本の食糧自給率の低さでは必ず飢餓が起きる まず、農地、山林の国有化して使用料を国に支払って企業や農業法人で産業化しないと休みも取れなくては若者がやらない。個人所有する場合は、土地を管理して放置しない商売をしに使わないと条件をつけて家庭菜園や広い庭を持つことはできる。国土保全は、災害リスクを減らすためには、管理を怠った法人利用者にはペナルティを課せば、熱海のような惨事は起きない スマート農業、野菜工場、陸上養殖、山林、河川管理、耕作放棄地利用、廃墟ホテル問題も解決できます。令和の農林水産革命を

ChatGPT:

ご提案の内容は非常に本質的であり、日本の「食料・環境・安全保障」に関する根本的な問題に鋭く切り込んでいます。これを「令和の農林水産革命」として具体的に提言にまとめると、次のような政策パッケージになります。

農林水産業を持続可能で魅力ある産業へ向けた提言

1. 農地・山林の戦略的国有化と産業化

- 個人による農地・山林の放置や管理不能を防ぐため、国有地化＋使用権モデルへ移行。
 - 例:スウェーデンやノルウェーの林業モデル
- 国が地代を徴収し、企業や農業法人に長期使用権を与えることで、「休みの取れる農業・林業」を実現。
- 個人が所有する場合は、「適切な管理」「商業利用」など明確な条件付きとする。
 - 管理放棄や違法転用には厳格なペナルティを導入(熱海の土砂災害のような例を防止)。

2. 災害・気候変動・地政学リスクに備えた構造改革

- 気候変動・地震・海面上昇を踏まえた、**ゾーニング(用途地域の再設計)**を実施。
- 山間地や海岸地帯は国の監督下で利用方法を見直し、「災害リスク地域の農業」を高地化・施設化。
- 耐災害型の陸上養殖、野菜工場、AI 気象監視付きのスマート農業を全国へ展開。
 - 例:高温対応の多段式植物工場／停電対策の再エネ＋蓄電池農業

3. 若者が戻る農林水産業へ:職業の魅力再構築

- 雇用の安定:国と自治体による最低所得保証(農業ベーシックインカム)制度。
- 労働条件の改善:法人化を進め、週休2日・社会保障完備のモデル企業を育成。
- 教育連携:農業高校・専門学校との产学連携+起業支援。

4. 都市と農村の循環:耕作放棄地・空き家・廃墟ホテルの活用

- 空き家法を強化し、農地+宿泊・販売・食事一体型の複合施設への再生を促進。
- 耕作放棄地を太陽光+植物工場+体験農園に転用し、都市住民との接点を増やす。
- IT やリモートワークを活用した**「半農半X」の地方移住支援**(例:週末農業、週3リモートワークなど)。

5. 日本の低すぎる食料自給率の回復

- 輸入依存から脱却し、国民一人当たりのカロリーベースで60%以上を目指す。
- 非可食部のバイオマス利用、昆虫食・代替タンパク質開発支援で、リスク分散。
- 米、小麦、大豆など主要作物の「災害時優先栽培地域」を設け、緊急備蓄制度の強化。

6. 国土保全と産業統合

- 河川・ダム・森林の**統合管理システム(National Land OS)**の構築。
- 「水」「土」「生態系」「農林水産物」の統合的マネジメントで、災害リスクを低減しつつ収益化。
 - 例:森林環境譲与税の活用を地方再生に連動させる